

2025(令和7)年度学校推薦型選抜「小論文」採点の講評

出典:堅田香緒里『生きるためのフェミニズム——パンとバラと反資本主義』(タバブックス、2021年7月)

問 以下の課題文を読み、問題1と問題2に答えなさい。

問題1 筆者が下線部⑥で指摘する「いびつな態度」とは何か、課題文を要約しながら説明しなさい。
(420字以内)(150点)

問題2 課題文で言及されている構造的問題という点に留意しつつ、下線部⑥の主張に対するあなたの見解を明らかにし、その理由を説明しなさい。(440字以内)(150点)

問題1については、例えば、社会保障が不十分な理由について言及しないなど、課題文中のキーとなる言葉や箇所を見逃している答案が多かった。また、例えばネオリベリズムという言葉は抜き出せていたものの、その意味を本当に読み取れているのか、不明な解答が散見された。

問題2の方は、出来ている答案とそうではない答案との差が大きかった。明らかに書きかけて終わっている解答もあり、試験時間の配分がうまくいかなかった受験生もいたようである。

2025(令和7)年度一般選抜前期日程「小論文」採点の講評

出典:御田寺圭『ただしさに殺されないために——声なき者への社会論』(大和書房、2022年5月)

問 以下の課題文を読み、問題1と問題2に答えなさい。

問題1 課題文を要約しなさい。(400字以内)(150点)

問題2 下線部で述べられているような、人がそれぞれ幸福を感じる行動や嗜好が、社会的・政治的に望ましいものであるかどうかという観点から制限されることについて、具体例を挙げながらあなたの見解を明らかにし、その理由を説明しなさい。(440字以内)(150点)

問題1について、誤字・脱字は少なく、ポイントとなる箇所をきちんと抜き出せている答案が多かった。解答の最後に自身の意見を示す答案が散見されたが、ここで問うているのは見解ではなく、要約である。

問題2に関しては、下線部を正しく読み取れていない答案が多かった。また自身の家庭のことのみを例示するなど、対個人という点からの記述にとどまり、対社会といった広い視野から解答できている答案は少なかった。憲法上の「公共の福祉」という言葉だけを理由として規制を可とする答案が多く見られた。高齢ドライバーの免許返納といった好例を挙げる答案があった一方、「具体例を挙げながら」との指示があるにもかかわらず、具体例を全く出さない答案が多く見られた。まずは問いの内容、指示をしっかりと理解してほしい。